

議会報告会における市行政の要望・提言一覧

令和5年5月12日から5月31日にかけて開催した議会報告会における議会に対する参加者からのご意見につきましては、以下のとおり措置・対応するよう努めます。

■5月19日（金） 1班 雲部地区 雲部公民館

地域全体に人が少なくなっている。観光や人寄せなど一時的なものではなく、人を増やす方法が必要。

地域おこし協力隊は、私益ではなく、地域のために人口を増やすアイデアや工夫を持った人に来てほしい。

都会へ出た子が帰ってこない。今、ここで子育てをしている人たちの子供も同じことになるのではないか。

集落や様々な会の役員をずっとやらなくてはいけないことや、田畑にしばられることから解放された暮らし方を考えるなど、別の視点から考えていくのはどうか。

老人会でも役員のなり手がいない。今年、東本庄の老人会は解散した。

→議会として共有させて頂きます。

地域に住み続けるためにはまずは交通をどうにかしてほしい。

高齢の単身者は一人でバスに乗ることが困難になってくる。バスは本数が少なく交通手段が不便、生活に欠かせない買い物や通院などに行けないとなると、人は住めない。

有償運送は制約が多く、結果として地域の要望に沿っていないことが多いと感じる。

バスは誰も乗車していないのでやめ、タクシーにしてはどうか。高齢者も、今まで車の維持費がかかっていた分を、タクシー代に変えてお金を出し、市として補助してはどうか。

→今年度、有償運送や公共バスを含めた交通について抜本的に見直す予定です。

集落に空き家があっても、所有者がなかなか貸してくれない。リフォームの負担を貸し手と借り手のどちらが負担するのか明確にすべき。・地域おこしといった意味合いから、里山工房くもべに店舗を開いた。外部の人に、地域を知ってもらうことが重要と考えている。移住希望の人が、「空き家はないですか」と尋ねて来られることが増えている。地元の情報はどこに尋ねれば分かるのか。

→空き家推進委員が各集落に1名、まち協にも委員がおられます。市としても積極的に調査し空き家情報を集めています。積極的に空き家情報を集めている地域では、移住者が増えているのも確かですので、是非、地域で空き家推進委員活動を担っていただき、地元の情報を集めて頂くことをお願いしたいと思います。

■5月12日（金） 1班 畑地区 みたけ会館

若い女性が住みたいと思う地域にならないと、今の状況は打開が困難だろうと思う。また、自治会などの役員は女性がどんどんなってもらいたい。

→お聞きしたご意見はそのとおりだと思います。

見守り支援サポーター事業は良い制度であるが、家事支援に限られ、庭の草刈りや伸びた木などは切ってもらえない。シルバー人材センターでは地域外（エリア外）と言われた。担い手不足は、高齢化した地域では困っていることがたくさんある。支援する仕組みを、集落単位で。

→シルバー人材センターについて、規約や範囲の拡大などについて確認しました。草引きなどはスタッフが少ないため断られていることがあり、また一般的な草刈りなどは可能ですが、高木や太い木を刈るなど作業内容によって対応が難しいとのことでした。

市内には仕事が無いし、賃金に魅力がなければ帰って来にくい。
都会へ出た若い人（地元出身の子供）が帰ってこない。
都会で居を構えた人は、定年後も生活の主が都会にあって、地元には住んでいない家だけ残っている。拠点がこちらに無いなら無いで、空き家として手放してくれればよい。
交付金をもらえても草刈り等作業ができる人が減っている。村はみんな限界。
農機具が高く購入できない。補助を個人単位にしてほしい。

→議会として共有させていただきます。

■5月26日（金） 1班 味間地区 四季の森会館西館研修室

少子化対策で現状を変更する予定はあるのか。子育て応援給付金もあるのだから、待機児童をなくす対策をとってほしい。

→保育士の確保が難航していますが、一方で「マイ助産婦制度」も設けられました。出産手当金の増額も実現していますし、第3子出産にも20万円の手当があります。

議員定数の削減はどう考えているのか。少ない人数でも市民の意見をくみとることが大事だと思う。市民から調べてほしいことを依頼された議員がなかなか手をつけずに1ヶ月くらい半ば放置した事例もあると聞いている。

→定数については1年半前に議会で調査研究し、議論を行った結果、現在の18人定数を堅持するという結論となりました。今後も検討は続けていきます。

この3年間「祭り」が開けなかった。住民の高齢化と住宅地域の空き家化が進んでいる。自治会に入らない入居者も増えてきた。築80年の公会堂が更新時期に来ている。

農業の担い手不足は、味間地区も同じ。耕作放棄地自体は少ないが（10%以下）、年々増えている。味間地区では、大規模農園や農業法人に預ける家が多く、農業をする個人農家が少なくなっている。農機具が高額で、一軒では賄えない。

自治会役員のなり手、次世代の担い手がいない。

転入者を増やすためにもっと空き家情報が必要。

人口増加策を考えてほしい。

自治会などへの助成があっても、その後のサポートなど、サポート体制がない。

→議会として共有させていただきます。

ベトナムなどアジアの国の人たちはコミュニティを作っている。地域住民が交流の場を作っても、外国の人たちは来てくれなかった。

言葉の通じない外国の人たち向けに、市の窓口には日本語への翻訳表を設置していたはずですが、今はないと思われるので復活させるべき。

弁天地区は付き合いのないアパートの賃貸住まいの人が多く、コミュニティがない。協議費はいただいているが、アパート管理者が戸数分をまとめて自治会に支払うので、誰が払っているのかも分からないため、市が「交流の場」を作ってほしい。

→議会として共有させていただきます。

通勤が大変で不便だと感じる。電車の本数を増やしてくれるよう、JRに働きかけてほしい。

JR篠山口の西口が飲食店もなく寂しい。これから国際博と言っているのに、これではどうかと思う。駅からのバスも不便である。

→議会として共有させていただきます。

市民の幸せを思って、何かあればすぐに飛んで行くような、市民のために動く議員であってほしい。

→いただいたお言葉は真摯に受け止めて、どの議員に相談してもらっても、しっかりとお応えできるよう努力してまいります。

古市地区には駅が多くあり、観光客には便利である。祭りは観光客など交流人口を増やすという観点で重要だと思う、コロナで疲弊した祭りの存続について、どのような対応で臨むのがよいのか？

古市には義士祭りなど3つの祭りがある。コロナで3年間祭りが出来てない。伝統を守るべきなのか、もう止めてしまうのか。

小学生が少なく、特にこども中心の祭りは存続が困難になっている。また、高齢化もさらに進んでいる。よその人に来てもらって続けていくのか、もう続けることが無理なのかと、いろいろと考える。

もし、続けるとすれば、祭りを古市地区全体で実施するとか、行政や議会が支援してくれるとかであれば継続できるかもしれないが。

→昨日の伝健全国大会の際、河原町で鉾復活巡行を実施しました。3月にも同様のお披露目をしていましたが、110年振りということで大きな反響を呼び、通りは人で埋め尽くされました。

鉾山は、黒岡と篠山城下町地区の秋祭りですが、担い手が減っています。特にこどもが少なく、必要とされる人員に大きく足りません。しかし、伝統の祭りは、地域の誇りであり、何としてでも続けていきたいですし、祭りがなくなれば、地域は寂しくなり、衰退してしまうと考えています。

対策としては、祭りの地域を拡げて参加できるようにしたり、外部からの支援、地域間の協力なども必要だと思います。汗を流し、知恵を絞り、持続可能な祭りにしていきたいと思っています。一緒にやりましょう。

祭りは小学生の参加がとても大切だということもあります。お互いが「元気な過疎」を目指しましょう。

■5月15日（月） 2班 西紀北地区 しゃくなげ会館

担い手不足対策には次の4点が挙げられる。

1. 他地域からの協力を求める。
2. 自力で頑張る。
3. 機械などを使って対応する。
4. 止める。

他に協力を求める場合、何をしてもらうのか、例えば、若い人に草刈りをさせるのは日本の将来にとっても余り良いことではない。また、丹波篠山市がどういう方向を向いて進んで行こうとしているのか、明確なビジョンの提示が必要だ。私の子供が多紀子ども園に通っているが、建物もスタッフの皆さんもとても良くてラッキーだったと思っている。

通ってみないと解らないのは残念だ。若い人の流入について、篠山が他市との差別化を図るなら、篠山の保育はこうですよという、おcaaさん方に支持される特色を打ち出さないとなかなか集まらないと思う。国からの補助金メニューは各市とも大きな差はない。施策も同様である。今、若い人たちはいろんな新しい取り組みを行っている。

議会の皆さんは、それらの取り組みにアンテナを張り、政務調査費を使って情報等を収集し、良いものは積極的に吸収していく姿勢が必要だと思う。

→議会としても同感です。何事もビジョンが大事で、保育にしろ、一般の政策にしろ、的確なビジョンを持ち、多くの市民の皆さんと情報や思いを共有し施策を進めていくことが重要であると思っています。

■5月15日（月） 3班 城南地区 城南コミュニティセンター

自治会内の農業の担い手は2軒。大規模農家にお世話になっているがいつまで続けてくれるか不安。

少子高齢化はずっと前からの課題、私たちに聞くのではなく原因が分かっているのなら議会が具体的な対策を講じて欲しい。

新しい住宅地の自治会であり、20年前には子供は多かったが今はほとんどない。

市全体でもっと定住を保障する意思を示してくれれば親も安心して定住や帰郷を進められる。

高齢になっても安心して暮らせる環境づくりが大切。

→議会で共有させていただきました。貴重なご意見として今後の地域振興策の検討に参考にさせていただきます。

■5月19日（金） 3班 城北地区 玉水会館

去る3月の議会で一般質問が実施されなかった。市長選挙後すぐであっても市政の課題について質問していただくべきである。

- 議会に持ち帰り協議いたします。
- 近隣市町の状況を確認し、調査を行います。

10月から導入予定のインボイス制度は農家や商業者への影響が大きい。制度に課題もあると考える。この重要な問題への対策について市はどう動いているのか、議会は議論してくれているのか。真剣に取り組んで欲しい。

- 市の備えについての説明は受けていません。議会においては、関心を持つ複数の議員が対策の必要性について話をしていますが公式な議論にまで至っておりませんので、意見は議会に持ち帰りたいと思います。
- 議会で調査を行います。

山や田畑が負の財産化してきている。特に村の山林については顕著であり固定資産税の減免をしてほしい。

- 固定資産税の減免については例がありませんので、共有林への課税状況については確認させていただきます。
- 課税課に確認したところ、左記の例に対する減免の制度はありませんでした。

■5月12日（金） 3班 大芋地区 大芋公民館

私が市外に出た理由は働く場所がなかったからである。定年帰郷したが、今も状況は変わらない。

定年延長（60歳から65歳）の影響で住民の地域活動デビューが遅れていることが担い手不足の原因である。

2040年に農業者が1/4に減少すると聞いた。このままでは農機の更新ができず農家が本当にいなくなる。

担い手の大切さはよくわかっている。しかし現実には、自分のことで精一杯である。

全ての農地を残すのは困難である。どの農地を残すかを考えなくてはならない。

小さな農家を大切に作る施策が必要である。

補助金だよりではダメ。淘汰されることも必要である。

担い手問題は人口問題である。子育て世帯を増やすなどの定住促進が大切である。そういった意味で、本地区に市営住宅の設置を考えて欲しい。

丹波篠山だけで問題（担い手の）に対応するのは難しい。市議会には他の地方議会と連携して、大きいもの（国の意）を動かすくらいの気概を持って、実際に動いていただきたい。

役員の負担が増大し続けており、限界に来ている。

働く場所（市内企業）のPRが不十分だと思う。

現役世代が役員になるとつらい。しかし、高齢役員になると市中心部での会議に出席できない。・利便施設（主に商業施設の意）が不足している。丹波篠山に利便施設が増えないのは、行政と民間の関係性に課題があるのではないか。

- 議会で共有させていただきました。貴重なご意見として今後の地域振興策の検討に参考にさせていただきます。

